

● 産業カウンセラー育成制度

現シニア資格と「構想」との関係について

会員からの疑問に答える●

ことし6月に東京で開催した全国研究大会では、協会本部から、これからの産業カウンセラー育成のあり方に関する新しい考え方を提起しました。これは「新たな産業カウンセラー育成制度の構築をめざして～産業の現場で活躍できる専門家育成に関する構想～」(以下、「構想」という)と題するものです。「構想」を掲載した会報別冊は会報8月号に同封しました。

この「構想」は、1970年代から始まった当協会の産業カウンセラー育成制度を見直し、今後の産業組織や社会に信頼され、影響力をもつコンピテンシー(高い業績を上げている人の行動特性)を備えた専門性の高い産業カウンセラーの育成をめざす方向へ転換することを目指すものです。

そのため、新しい育成制度では、初めて産業カウンセリングを学ぶ方が対象にした「入門講座」、それを修了した方を対象にし、産業カウンセリング全般の基本について実技をより重視して学ぶ「新・養成講座」、そしてさらに専門性を高める「専門講座」の3段階を一連のものとして構成しました。とくに「専門講座」では「新・養成講座」での知的理解をベースにして、演習や実習を中心として実践的理解と実践能力をつけるとともに、これまで手薄であった「人間関係・組織開発への援助」の領域での組織への働きかけ力を強めるカリキュラム構成を考えています。

この「構想」については来年の総会にむけてすべての支部で討論や意見交換をおこなったうえで決定する取扱いとし、現在、本部三役等が参加して支部での意見交換会を開催しています。

これまで開催した数支部における意見交換会のなかでは、現在の資格、とりわけシニア産業資格がどのようになるのかということへの疑問が寄せられています。そこで、提起している「構想」における、現資格の取扱いに関する考え方などについてご説明します。

Q 「構想」が実施されるとシニア産業カウンセラー資格は無くなってしまおうのでしょうか。

A : まず、育成の制度がどのように変わっても、現在、資格を付与されている方の資格がなくなることはありません。

Q 「構想」では、専門性を高めるために新たに「専門講座」を開設して新しい資格を設け、その制度が実施された後には新たなシニア資格試験はおこなわないとしています。その場合、現在の有資格者はどのような方向をめざせばよいのでしょうか。

A : 今回の「構想」における、専門性の高い産業カウンセラー育成の考え方を具体化するうえでは、二つの道を考えています。

第一には、協会のこれからの育成制度として、前述のような「入門講座」「新・養成講座」「専門講座」の3段階を一連のものとして受講していただき、新たな資格を付与するという仕組みを制度化することです。これによって、当協会の産業カウンセラー育成の基本的考え方を内外に明らかにすることになります。

第二には、現在、協会認定の3資格をもって活動している方についても、専門性を高める道筋を提供します。

その方法としては、シニア資格を有している方についていえば、「専門講座」を部分受講していただき、修了試験をへて新たな資格を付与します。

これまで、産業カウンセラーとしての実践力を高める研鑽の道筋が、協会支部が主催する各種研修の受講か、または個人の努力にゆだねられていましたが、今回の「構想」では、これを一連の統合的な育成制度の仕組みとして提供することになりますし、現行の有資格者が自らの希望する専門能力を選択的にさらに高める道も用意することを考えています。

したがってこの制度が実施され、一定の移行期

間が過ぎたら新たなシニア資格試験は実施しないこととなります。

Q 現在のシニア資格をめざすべきか否か、この「構想」を読んで迷っている人がいます。そうした方にはどのような説明をしたらよいでしょうか。

A：前記の質問でお応えしたように、シニア資格を有する方には、専門講座の部分受講（まだ、現時点では必須科目は確定していません）を経て、

新しい資格が付与されるという経過措置を設けます。この制度は、これまでの協会の育成制度において不十分であった分野について、専門講座を設けて補強してゆくことが目的ですから、それにいたる前段階として、現在のシニアコース講座を受講し、シニア資格をめざすことは、もっとも効率的な学習方法であり、また、専門性をめざすうえで無駄になるものではありません。